

(別紙報告様式)

鳥獣被害防止総合対策事業の評価報告(令和8年度報告)

市町名：広島市

1 事業評価報告

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施 年度	対象鳥獣	事業内容	事業量		管理主体	供用開始 時期	利用率・ 稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績												事業実施主体の評価	
											獣種	被害金額				被害面積				処理頭数				
												現状値 ()	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値	達成率	現状値	目標値	実績値		達成率
広島市鳥獣被害 防止総合対策協議会	広島市	R5	イノシシ シカ サル ヌートリア タヌキ アナグマ カワウ	有害捕獲 (箱わなの導入)	大型	7基	協議会 地元集落	R6.3	100%	箱わな等の導入を通じた捕獲機材の整備により、捕獲頭数は増加傾向にある。 侵入防止柵(ワイヤーメッシュ柵)を設置による被害防除の取組と合わせて、継続的な実施により、農作物被害の軽減に一定の効果が見られている。	イノシシ	22,803	21,310	19,133	246%	13.19	12.01	14.67	-125%	1,609	1,950	965	-189%	箱わな等の捕獲機材の整備により、鳥獣被害対策の推進を図った結果、一部の獣種においては被害金額や被害面積の減少が見られるなど、一定の効果が確認された。 一方で、獣種によっては生息状況の変化や生息域の拡大等の影響により、目標達成に至らなかった項目も見られた。 引き続き、「防除」・「駆除」・「環境整備」の3つの手法を組み合わせた総合的な鳥獣被害対策を推進するとともに、地域ぐるみの被害防止活動の支援や捕獲体制の充実を図り、農林業被害等の低減に努める。
					中型	0基					シカ	16,373	15,300	21,198	-450%	8.79	8.00	8.97	-23%	1,641	1,750	2,190	504%	
					小型	4基					サル	3,730	3,485	1,742	811%	0.91	0.83	0.65	325%	51	100	146	194%	
					囲いわな	0基					ヌートリア	343	320	835	-2139%	0.20	0.15	0.76	-1120%	11	30	8	-16%	
		R6		有害捕獲 (箱わなの導入)	大型	24基	協議会 地元集落	R7.3	100%		タヌキ	735	687	2,052	-2744%	0.27	0.25	0.28	-50%	55	120	17	-58%	
					中型	0基					アナグマ	534	499	2,908	-6783%	0.22	0.20	0.47	-1250%	65	80	116	340%	
					小型	0基					カワウ	26,000	19,000	24,000	29%	—	—	—	—	14	30	10	-25%	
					囲いわな	1基																		
		R7		有害捕獲 (箱わなの導入)	大型	20基	協議会 地元集落	R8.3	100%															
					中型	0基																		
					小型	0基																		
					囲いわな	0基																		

注1)被害金額及び被害面積の目標欄については、対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載してください。

注2)達成率の算出方法については「実績値(＝基準年値－実績値)／目標値(＝基準年値－目標値)」であるとして算出してください。

注3)被害防止計画の目標と実績の処理頭数の欄については、「ジビエ等の利用拡大に向けた地域の取組(販売拡大支援)」のメニューを活用した場合に記載してください。

2 第三者の意見

コメント:「株式会社BOーGA 広島オフィス所長 藤井 猛」
・地域住民自らが有害鳥獣を駆除する際に必要な箱わなの設置状況について、 有害獣の出没箇所とわな設置箇所との間にミスマッチが生じているように見受けられた。
・具体的には、有害獣の出没箇所付近にわなが設置されている事例も確認された一方で、多数の出没情報が寄せられている中でも捕獲が実施されていない場所が見受けられた。
・このため、有害獣の出没箇所とわな設置箇所の可視化が進められている地域においては、出没状況や捕獲実績を分析した上で、こうした捕獲が不十分である場所に、効果的かつ戦略的にわなの設置を進めていく必要がある。

注)第三者の名前・所属・役職等を記載のこと。